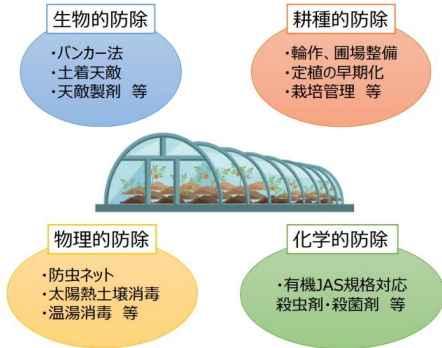


施設有機栽培ミニトマトの総合的病害虫管理体系

○防虫ネット、バンカー法、天敵製剤などを活用したIPM体系を実践することにより、病害虫の発生リスクが高い施設有機栽培ミニトマトでも慣行栽培に近い収量を得られ、高収益化が期待できます。

防除体系の3原則

- ①施設内に「**入れない**」
(防虫ネット、輪作等)
- ②施設内で「**増やさない**」
(バンカー法、天敵製剤等)
- ③施設外へ「**出さない**」
(施設の締め切り等)



病害虫管理技術の適用例

害虫対策と病害対策を組み合わせ実施し、必要に応じてその他技術を導入する。

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
作業	育苗		定植		収穫開始					収穫終了
害虫対策	コナジラミ類 天敵放飼									
	アブラムシ類 天敵放飼、バンカー法、微生物製剤散布									
	トマトサビダニ・アザミウマ類 有機JAS規格殺虫剤散布									
	その他 防虫ネット、害虫持ち込み防止、残渣処理、ハウス周りの防草シート									
病害対策	萎凋性土壌病害 栽培ハウスの選定* 早期定植			萎凋性土壌病害 抜き取り						
	葉かび病 土壌消毒		うどんこ病・すずかび病・葉かび病 有機JAS規格殺菌剤散布							
	その他 病害虫の持ち込み防止、下葉・側枝整理、通風確保									

※前年の盛夏に太陽熱土壌消毒を実施したハウスを選定

経営評価

コナジラミ類やアブラムシ類等の害虫および萎凋性土壌病害や葉かび病等の病害が多発生した圃場での試験結果(茨城県)

	2016年	2017年	2018年	2019年	増減率(18~19年,%)	慣行栽培	備考	
粗収益	収量(kg)	2,049	4,096	4,318	5,092	18	5,800	
	単価(円)	800	800	800	800	0	600	
	計	1,638,824	3,276,905	3,454,410	4,073,411	18	3,480,000	
物財費	種苗費	414,000	414,000	414,000	414,000	0	414,000	県指標を設定
	肥料費	151,398	133,932	115,652	115,652	-14	42,634	県指標を設定
	農業費	210,799	155,736	135,735	135,735	-13	51,752	県指標を設定
	修繕費等	115,684	115,684	115,684	115,684	0	115,684	県指標を設定
	計	1,344,885	1,707,081	1,634,553	1,596,272	-2	1,439,271	
	生産コスト(慣行=100)	(93)	(119)	(114)	(111)		(100)	
	労働費	雇用(円)	573,104	861,086	888,924	901,228	1	
(10a当たり労働時間)	(498)	(748)	(637)	(696)	9	(986)		
出荷経費(円)	163,882	327,690	345,441	407,341	18	979,910		
支払子(円)	34,569	34,569	34,569	34,569	0	34,569	県指標を設定	
総費用(円) 計				3,487	2,939,410	1	2,453,750	
農業所得(円)							1,026,250	
純利益(円)							-250,489	

注:1) 生産コストは、物財費のみで比較している。

2) 出荷経費に関しては、試験区は契約栽培のため、粗収益の10%としている。

3) 慣行栽培に関しては、実証経営体と同じ作型である長野県農業経営指標(2017年版)を用いている。指標では、苗はポット接ぎ木定植苗購入、出荷に関しては個選となっている。

4) 2018~2019年の農業、肥料の散布量のデータについては、一部誤入力があったため、散布回数に2017年の平均散布量を乗じて計算している。

5) 農業所得には家族労働費が含まれる。

6) 慣行栽培の純利益に関しては、家族労働の賃金水準を実証経営体(2019年)と同等とみなした場合の数値である。

物財費は慣行栽培と比べて高くなるものの
収量改善・単価増により、純利益が増大
⇒慣行栽培より高い収益が期待できる!

詳細

①農研機構「施設有機栽培ミニトマトの総合的病害虫管理体系」https://www.naro.go.jp/project/results/4th_laboratory/carc/2020/20_013.html

②標準作業手順書 https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/naro/sop/143690.html

資料作成協力: 農研機構

○本成果にもとづいてIPM体系を構築する際は、以下の資材が使用できます。

【天敵製剤】

チャバラ <https://www.kyoyu-agri.co.jp/prod/category/22547.html>

【殺虫剤】

コロマイト乳剤 <https://www.mitsui-agro.com/products/18406/>

スピノエース顆粒水和剤 https://www.kumiai-chem.co.jp/products/document/spinoace_wg.html

エコマスター B T https://www.kumiai-chem.co.jp/products/document/ecomaster_bt.html

エスマルク D F <https://www.kyoyu-agri.co.jp/prod/category/19885.html>

ゼンターリ顆粒水和剤 <https://www.hokkochem.co.jp/archives/nouyaku/19618>

トアローフロアブル C T <https://www.oat-agrio.co.jp/cgi/psearch/item/2013101715490604/index.html>

サンクリスタル乳剤 <https://www.sankei-chem.com/products/productfile/?id=70>

【殺菌剤】

クリーンカップ https://www.kumiai-chem.co.jp/products/document/cleancop_wp.html

エコショット https://www.kumiai-chem.co.jp/products/document/ecoshot_wg.html

ジーファイン水和剤 <https://www.kyoyu-agri.co.jp/prod/category/18534.html>

カリグリーン <https://www.oat-agrio.co.jp/cgi/psearch/item/2013101716095104/index.html>